

第六次筑後市総合計画後期基本計画の策定に向けた意見募集結果

1. 意見等の募集期間 令和4年9月9日（金）～令和4年9月30日（金）
2. 計画案の公開場所 市ホームページ、市役所本庁舎総合案内窓口、市立図書館、企画調整課
3. 意見提出数 2件（2人） 意見提出方法の内訳：市役所本庁舎総合案内窓口 1人、FAX1人

寄せられた意見と、それに対する市の方針を、一覧表にして掲載します。

No.	意見	内容	市の考え方
1	第五次総合計画にあった、基本事業「市民との協働に向けての職員の意識の醸成」の復活	<p>基本的に、第五次総合計画よりも第六次総合計画は後退しているように思う。特に、第五次にはあった基本事業「市民との協働に向けての職員の意識の醸成」が、第六次では消滅してしまっている。コミュニティ協議会立ち上げの頃は、ファシリテーター役をする市役所職員が存在し、ともに筑後市を創り上げることを実感したもののだが、現在は皆無である。</p> <p>本計画が現す「協働のまちづくり」の推進とは、市民同士がお互い協議することによって、市役所が行うこととして、「積極的に情報発信する」ことのみと受け取れる。その後続く「市民との協働活動の再点検・見直し」とは何を意味するのか、不明である。デジタル化の推進により、市民の利便性も向上するが、それは市民と市役所との関係性が希薄になることも考えられる。このままでは、市民と市との「協働のまちづくり」は果たして構築できるのであろうかと、危惧する。</p> <p>後期基本計画が、筑後市のこれからの5年間を決めるとなると、結果としては「協働のまちづくり」とは正反対のものになる予感がする。このままでは、5年後の地域が疲弊することは目に見えている。なぜなら地域の事情も考慮しないまま、地域住民自身による活動要請は増えるばかりである。一方、縦割り行政を引きずる他部署は相も変わらず行政区長に色々な要請をしてくる。</p> <p>今や70歳でも就労する人は増えてきた。リタイヤする時は体調不良だったりする。そんな現状は認識されているのであろうか。これからは若い時から地域活動に関わっていることが大事である。市民の意識を変える必要もある。そういう人材を創り出すことが必要である。それには、「協働推進課と社会教育課の連携」が必須であろうし、「市民との協働に向けての職員の意識の醸成」を復活させる必要がある。</p>	<p>ご意見にありますように、行政区や校区コミュニティ協議会、市民活動団体等の地域組織においては、定年延長による人材不足や市からの依頼内容増加、地域社会における人間関係の希薄化により、多くの課題があるものと認識しております。</p> <p>市では、このような状況に対して、まずは地域組織の運営状況や活動内容を幅広い世代へ積極的に情報を発信し、地域組織の意義や役割を広く周知し理解を促していく必要があると考えております。一方で、市民と市との協働を推進するにあたっては、地域組織の負担感を認識したうえで、市から地域組織へ依頼している業務等について思い切った見直し「市民との協働活動の再点検・見直し」を行っていく必要があります。また、地域デジタル化の推進に際しては、例えばLINEなどのSNSを活用した情報共有やオンライン会議・研修の導入による時間的、距離的な課題の解消等、本取組によって期待する効果を地域組織の運営や活動における業務負担の軽減としておりますので、市民と市の関係性が希薄とならないように取り組んでまいりたいと考えております。</p> <p>第五次総合計画では「市民との協働に向けての職員の意識の醸成」を基本事業として、成果指標で「市民との協働を理解する職員の割合」および「地域活動、ボランティア活動に参画している職員の割合」の向上を図ることとしており、第六次総合計画において削除しておりますが、このことは職員が市民協働に対する意識の醸成が必要なくなったものではなく、職員の意識の醸成は、協働はもとより市が取り組む様々な分野、課題に対して、当然に必要となるものであるため、毎年の新規採用職員への研修や職員地域応援隊の結成等、日々の業務の中で取り組んでいくべきものと認識しております。</p>
2	可燃ゴミ袋の小さいサイズを作してほしい	<p>週に2回の生ゴミの袋の件です。</p> <p>プラスチック、雑紙、牛乳パック等々、分別していますので、生ゴミや汚れたものを少し出す時には大き過ぎると思います。</p> <p>例えば、スーパーのレジ袋（MやL）位の袋があれば便利ではないかと思えます。</p> <p>特に、夏場はコバエや虫が発生したり、臭いがこもったり、いやな思いをすることも少なくないのではないのでしょうか。</p> <p>一人暮らしになり、つくづく痛感しております。</p> <p>ぜひ、御一考いただきたく要望致します。</p>	<p>第六次総合計画後期基本計画では、ごみの発生を抑え、再利用や再資源化することにより、家庭から出されるごみの削減を目指しています。</p> <p>資源ごみの分別を徹底された結果ごみの量は減少し、また単身や少人数世帯の増加などの要因から、より小さいサイズの可燃ゴミ袋の需要が高まることも想定されます。</p> <p>小さいサイズの袋を作成することでの費用効果や収集時の作業効率など様々な課題がありますので、後期基本計画を進める上で検討していきます。</p>